

千葉県小児・AYA世代のがん患者等の 妊孕性温存療法研究促進事業について

千葉県健康づくり支援課がん対策班

(国)小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業とは

- 若年者へのがん治療によって、主に卵巣、精巣等の機能に影響を及ぼし、**妊孕性(妊娠する力・させる力)**が低下するおそれがある
- 将来子どもを授かることを望む小児・AYA世代のがん患者等が希望をもってがん治療等に取り組めるように、

妊孕性温存(卵子・精子・受精卵の採取・凍結)に要する費用の一部を助成することによる**患者の経済的負担の軽減**

患者の臨床データ等を収集することによる**妊孕性温存療法の研究の促進**(有効性・安全性のエビデンス創出など)
を図ることを目的とした事業

千葉県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存研究促進事業

千葉県の指定医療機関 (R7. 12. 1時点)

国要綱

R3. 3. 23 国要綱の制定
※施行はR3. 4. 1

妊孕性温存療法
の助成開始

R4. 3. 20 国要綱改正(第1回)
①温存後生殖補助医療を
事業対象に追加

②温存後生殖補助医療の
指定医療機関について
日本産婦人科学会の承認を要件化

生殖補助医療の
助成開始

千葉県要綱

R3. 10. 12 県要綱の制定
※R3. 4. 1以降に指定医療
機関で実施した治療が
対象

R5. 1. 10 県要綱改正(第1回)
①温存後生殖補助医療を
事業対象に追加
※R4. 4. 1以降に指定医療
機関で実施した治療が
対象

②温存後生殖補助医療の
指定医療機関に日本産
婦人科学会の承認を要件化

妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療実施機関

1. 医療法人緑萌会 高橋ウイメンズクリニック
2. 東京歯科大学市川総合病院
3. 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
4. 医療法人社団亀田会 亀田IVFクリニック幕張
5. 千葉大学医学部附属病院
6. 順天堂大学医学部附属浦安病院

令和8年3月16日(月)
がん対策審議会
子ども・AYA世代部会

資料4-1

助成金の支給実績

年度	支給人数 (実数)	支給件数 (延数)	支給総額
R3年度	30名	39件	9,317,492円
R4年度	77名	93件	19,298,464円
R5年度	77名	98件	19,644,460円
R6年度	101名	143件	23,889,834円
R7年度	53名	68件	10,958,860円

※令和7年度は4月～9月までの申請分

◎ 年々支給総額は増えている

5

助成金の支給実績の内訳 資料4-1

【妊孕性温存療法】

(単位：件)

年度	胚(受精卵)凍結	未受精卵凍結	卵巣組織凍結	精子凍結	精巣内精子採取術による精子凍結	計
R3年度	16	19	0	4	0	39
R4年度	31	27	4	26	1	89
R5年度	23	28	6	20	2	79
R6年度	30	32	3	38	0	103
R7年度	12	11	2	20	0	45

※令和7年度は4月～9月までの申請分

◎ 年々申請件数は増えている

6

助成金の支給実績の内訳

【生殖補助医療】

(単位：件)

年度	凍結した胚(受精卵)を用いた生殖補助医療	凍結した未受精卵を用いた生殖補助医療	凍結した卵巣組織を用いた生殖補助医療	凍結した精子を用いた生殖補助医療	計
R3年度	—	—	—	—	—
R4年度	2	0	0	2	4
R5年度	9	1	0	9	19
R6年度	32	0	0	8 ^{※1}	40
R7年度 ^{※2}	15	0	0	8	23

※1 「凍結精子を用いた生殖補助医療」は、途中で中止となった1件も含む

※2 令和7年度は4月～9月までの申請分

※ 助成回数

- ・治療初日の妻の年齢が40歳未満：1子ごとに通算6回まで
- ・治療初日の妻の年齢が40～42歳の場合：1子ごとに通算3回まで

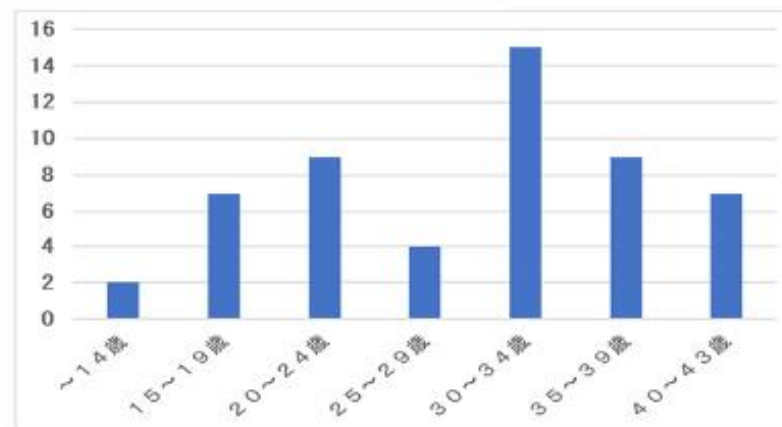
◎ 年々申請件数は増えている

7

助成金申請者の傾向分析 ① 年齢構成

R7年度(4月～9月までの申請分)

支給人数(実数) 53名



8

助成金申請者の傾向分析 ② 居住地

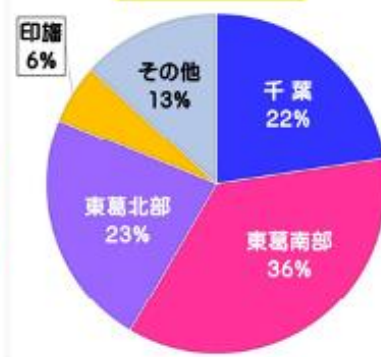
R7年度（4月～9月までの申請分）

支給人数（実数）53名

市町村別



二次医療圏別



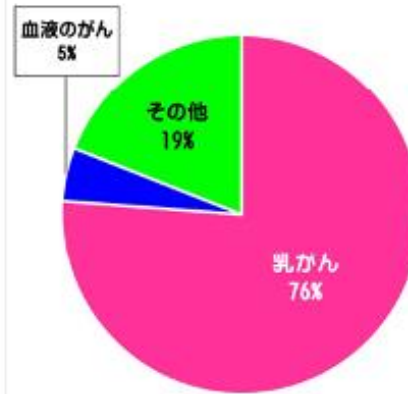
県北西部の3医療圏が81%を占めている

助成金申請者の傾向分析 ③ 原疾患

R7年度（4月～9月までの申請分）

<妊孕性温存療法のみ> 支給人数（実数）40名

【女性21名】



【男性19名】

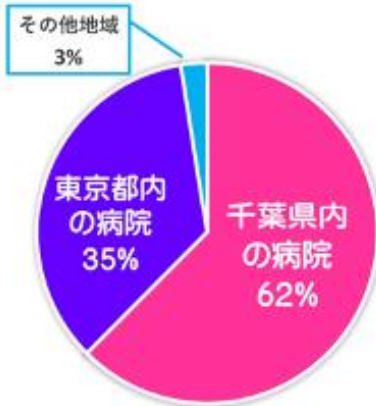


※生殖補助医療実施の申請時は原疾患病名の記載欄なし

助成金申請者の傾向分析 ④ 原疾患治療機関

R7年度（4月～9月までの申請分）

<妊孕性温存療法のみ> 支給人数（実数）40名



<主な原疾患治療機関>

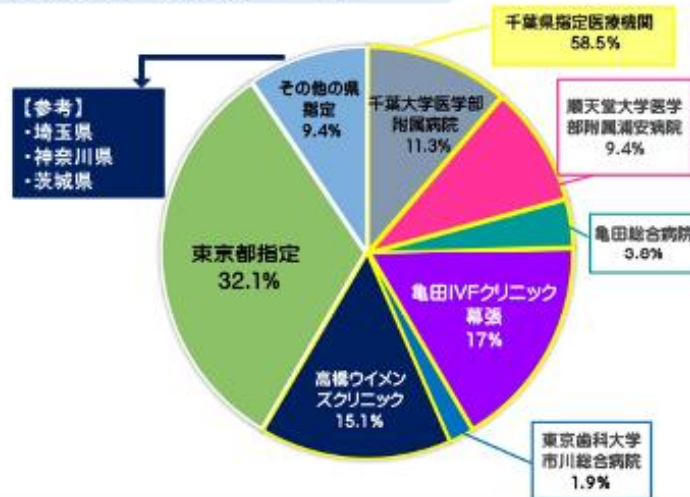
- (県内) 国立がん研究センター東病院 13%
- (県内) 千葉大学医学部附属病院 8%
- (県内) 国際医療福祉大学成田病院 8%
- (県内) 成田赤十字病院 8%
- (県内) 千葉県がんセンター 8%

※生殖補助医療実施の申請時は原疾患病名の記載欄なし

助成金申請者の傾向分析⑤（妊孕性温存）指定医療機関

R7年度（4月～9月までの申請分）

支給人数（実数）53名



【参考】
・埼玉県
・神奈川県
・茨城県